

第1回館林市立学校適正規模・適正配置北地区検討委員会 議事録					
日時	令和8年6月10日（水） 午後6時00分 ～ 午後8時13分				
場所	館林市文化会館 小ホール				
出席者	委員	土屋 修 麦倉 晃 清水 敦 大塚 健嗣 荒井 清一 菊地 昇一 小林 秀夫 大塚 友香 山本 暁 石川 貴子 小松崎 広幸 木村 淳史 竹内 信子 菅田 ゆり子	清河 素晴 大島 絵理子 川島 宗隆 上野 香織 浅沼 三恵子 亀田 正道 吉田 美里 長野 恵 篠原 佳奈 渡辺 千夏 青津 美穂 中村 めぐみ 吉間 芽実	欠席委員	大澤 好則
	市教委	教育長 中村 美江子			
	事務局	学校教育課長 峯崎 正樹 教育総務課総括係長 岩瀬 美花里 学校適正配置推進室 学校適正配置推進係指導主事 荻野 和明			

【次第 1 から 4 までは北地区、西地区及び南地区合同で開催】

1 開会

2 委嘱状交付

- ・中村教育長から北地区、西地区及び南地区の出席者 6 5 名に委嘱状が渡される。

3 教育長挨拶

発信者	内容
教育長	皆様、こんばんは。教育長の中村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ただいま、委嘱状をお渡しさせていただきました。委員をお引き受けいただき大変ありがとうございます。また、皆様には日頃から館林市の教育に関しまして大変ご尽力いただき、心より感謝申し上げます。 本市教育委員会ではこれまで、学校再編における基本方針の策定と説明会を開催してまいりました。説明会では、多くの皆様からそれぞれの学校に対する思いや子どもたちに対する心配の声、新しい学校に対するご提案など、たくさんのご意見をいただきました。これからの議論は方針を具体的な形にしていく非常に重要な段階となります。委員の皆様には説明会でいただいた地域の思いや現状、そして、将来の子どもたちの姿を十分にお考えいただき、所属団体の代表として建設的な議論をよろしくお願いいたします。検討の過程では多様な視点に基づいた活発なご意見が交わされることと思います。 そのような中でも、全員が目指す目的は一つです。子どもたちのより良い教育環境づくり、そして、子どもたちの学びが充実し、健やかな成長ができる学校をつくることです。委員の皆様のこれまでの豊富なご経験や広い見地からのご意見をいただきながら、最善の計画を策定してまいりたいと考えております。 これから 6 回と長い期間となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

4 館林市立学校適正規模・適正配置基本方針について

- ・基本方針の内容について説明。

【合同検討委員会出席者】

- ・委員：北地区、西地区及び南地区検討委員（6 5 名）
- ・市教委：教育長
- ・事務局：教育部長、教育総務課長、同総括係長、同施設整備係長、学校教育課長、同教職員係長、同指導係長、学校適正配置推進室長、同学校適正配置推進係長、同学校適正配置推進係員

【以降、地区ごとの会場へ移動〔北地区：小ホール、西地区：３号室、南地区：４号室〕】

- ・委員２８名の過半数となる２７名の出席により、審議会が成立することを確認。

５ 自己紹介

- ・委員と事務局の自己紹介。

６ 委員長及び副委員長選出

- ・委員の互選により、土屋委員を委員長に選出。
- ・委員から副委員長の推薦が出ず、事務局から浅沼委員を副委員長に推薦。承認される。

７ 議事

発信者	内容
事務局	それでは、この後の進行は、規則第８条に基づき、土屋委員長に議長として進行をお願いいたします。それでは、土屋委員長よりお願いいたします。
委員長	まず、議事に入る前に、館林市立学校適正規模・適正配置北地区検討委員会傍聴等に関する規程について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	それでは説明させていただきます。「館林市立学校適正規模・適正配置北地区検討委員会傍聴等に関する規程（案）」をご覧ください。館林市立学校適正規模・適正配置北地区検討委員会は、本市の附属機関に該当する組織となりますが、この附属機関は館林市附属機関等の設置の指針及び運営等に関する要綱で会議等は原則公開と規定されていることを踏まえ、第２条では会議の公開について規定しております。この会議では特段個人情報を取り扱う予定がないため、公開とさせていただきたいと思います。第３条では会議の傍聴について規定しており、同第１項では定員を１５名としている他、同第３項では、傍聴を制限する事項、同第４項では傍聴人の守らなければならない事項などを定めております。第４条では議事録の作成及び公表を規定しており、会議の終了後に議事録を作成し、公表することを定めております。
委員長	ただいまの内容について、何か質問はございませんか。
委員	委員の発言が、傍聴人がいることによって委縮されることがないように配慮していただければと思います。
事務局	その点につきましては、十分に配慮していきたいと考えております。

委員長	他にいかがでしょうか。
委員	今配慮していくと言っていましたが、どのような配慮をしていくのですか。
事務局	例えば、映像の場合は個人名を挙げたり、顔が映らないようにしたりなど、そういった配慮を考えております。
委員	要するに、発言者が特定できないように配慮していただければ良いと思います。カメラなどに写ってしまうとね。
委員長	議事録などではどのような扱いになるのですか。
事務局	議事録につきましても、発言者の個人名が出ることはございません。報道カメラ等につきましても、顔などを映さないよう配慮をお願いしております。
委員長	よろしいでしょうか。
委員	はい。
委員長	他にいかがでしょうか。 (意見等なし) ないようですので、こちらの内容でご了承いただければと思います。 それでは、次第7の議事に入ります。はじめに、事務局から当委員会の概要、委員会の進め方について説明をお願いします。
事務局	それでは、当委員会の概要につきましてご説明いたします。 合同の検討委員会においてもお話をさせていただきましたが、令和8年3月に基本方針を策定しました。基本方針では、適正規模の基準、適正配置の基準、学校再編の方法や検討エリアなどについて示されております。本検討委員会では、基本方針に基づいた学校再編のスケジュール、再編校の候補地などについて検討を行い、令和8年度中の基本計画策定を目指していきたいというものでございます。 北地区検討委員会は28名の委員をお願いをしております。学識経験者や小中学校長、園長という教育の専門知識を有する方だけではなく、小中学校児童生徒の保護者、未就学児の保護者の方や、地域の代表である区長さんなど、それぞれの立場からご意見をいただきたいと考えております。
委員長	本日は初回ですので、具体的な検討をする段階までは入っていけないかと思っております。しかしながら、皆様もそれぞれのお立場でここにご出席いただいて

	いますので、全員の方からお考えやお気持ち、課題等をお持ちでしたらご発言いただければと思います。あまり難しく考えずに、この議論の行く末についてでも、ご質問等でも結構です。なお、時間にも限りがございますので、ご意見やご質問等につきましては、お手元のご意見・ご質問シートに書いていただいてそれに対して次回事務局から回答があるという形になります。それでは、現状や今後についてお考えを伺いたいと思います。
委員	説明会の際、他市の事例を見ると学校再編までに4年から5年かかっているという話がありましたが、できればもっと早くにやる方が良いかなと思います。まだありますが、後は書いて提出します。
委員	基本方針については大方理解しました。この方針に沿って円滑に進めたいと思います。特に、再編の方法では通学区域の見直しに期待しています。私は3つの説明会に参加しました。先ほど短期間でという話もありました。単に数合せのために少子化対策を考えなければならないという発言もありました。子どもたちのために将来の市の発展を見据えながら、お母さんの働きやすい市の財政などを考慮して検討するべきだと思っています。この委員会は28人ですが、南こども園の園長と保護者代表が入っていないことに非常に違和感を覚えています。説明会に参加していた保護者の方から「できたばかりの立派な施設である南こども園、学童クラブの施設が無駄になるようなことはならないように」との発言がありました。代表がいなければ、こうした意見は検討委員会に反映されません。ぜひ、決定については検討していただきたいと思います。私はこの発言は非常に重く受けとめたいと思います。また、説明会では緑町一丁目を二小学区に編入してはどうかなどの提案もしていて、こうした通学区域の見直しも検討することが重要だと思っています。最後に、どのくらいの予算が必要なのか、学校の適正化についてシミュレーションする必要があると思います。客観的なデータを出していただいて、それに基づいて議論することが一番良いのかなと思っています。
委員長	南こども園と学童クラブのお話があったということですね。
委員	それらが入っていないので、二小代表として来ている保護者の方は全部の意見を代表していろいろなことを言わなくてはならないという非常に重い立場になると思います。
委員	そんなに具体的なことは言えないのですが、学校適正規模・適正配置というのはあくまでも子どもたちのより良い学校の環境づくりが根本だと思います。それと子どもたちのより良い学校教育はまた別だと思うのですが、適正

	配置をすることで館林市の学校教育が更に進展していくというか、充実していくというか、何度も話に出てきているように、子どもたちが生き生きと一人一人が学校で楽しく豊かに学べるような教育づくり、環境は教育の一部ですけれども、教育づくりに結び付けていけるような議論ができることが大事なかなと強く感じております。
委員	北地区には小規模特認校になっている第四小学校がありますが、全校児童が53人で、そのうち17人が学区外から四小まで来ています。昔から四小の子どもは地域の住民の方が見守り育てていて、ボランティアの方が来て田植えをしたり、サツマイモを植えてサツマイモ掘りをしたり、地域の方と一緒に運動会をしたりしています。地域と子どもたちが一緒になって楽しい学校生活をつくっていくことが、四小の大きな魅力だと思います。 再編してもまた地域と子どもたち、そして学校が一緒になって子どもたちの成長を見守っていく仕組みをつくって、地域の方もそういうボランティアとして助け合っていけるようなものをつくっていければ良いと思っています。
委員	私が中学校を卒業した後、小学校はそのまま残りましたが、中学校は統合されて校舎がなくなりました。統合については私のいる地域ではそんなに強く受け止めていないのではないかと思います。今小学校を卒業した子たちは抵抗なくかつて統合された中学校に通っているように感じます。 ただ、聞いた話ですと不登校の子が何人かいるようです。今まで1クラスだったのが複数クラスになって戸惑いなどがあって不登校になっているのかなと思うのですが、先ほども説明があったように、そうした子どもたちのケアというのもきちんとやっていかなければならないと思います。再編する時に不登校などの問題も出てくると思うので、できれば新小学校1年生の段階から先に新設校にしてしまった方がやりやすいのではないかと思います。
委員	適正規模・適正配置の基本的な考え方を説明されましたが、この考え方についてはなるほどと、必要なことだと思いました。子どもたちのより良い環境づくりのために再編を考えていくことは大切だと思っています。ただ、難しいのは再編の方法をどうするかということだと思います。どうしてかというと、多分これから皆さんがいろいろ語ると思いますが、それぞれ思いが違います。そこをどうすり合わせていくかとなった場合に、先ほどご意見があったように予算がいくらかかるのかとか、どのような規模になるのかとか、そういった根拠やデータを示しながらではないと、思いと思いのぶつかり合いでは結局結論がなかなか出ないと思っています。 学校再編の方法についても基本方針に2つ書いてあります。学校の統合なの

	か、通学区域の見直しなのか。この2つに絞られてきてしまうのかなと思います。ですから、これを議論するためのデータや根拠といったものが必要と感じています。ただただ難しいなということを思っています。
委員	今お話があったように、大変難しいと感じております。学校として一番関わってくるのが分散進学というところかと思えます。ただ、卒業して3つの中学校に分かれるが故に、6年間にとても愛情深く保護者の方や地域の方に見守られているというところは本当に実感しております。保護者の方や地域の方が納得する形というのは非常に難しいところですが、広くご意見をいただきながら進めていければと思っております。
委員	私も先ほど話題に出ていた中学校が合併した時に地元にいたので、当時のことをすごく思い出すなと思いながら聞かせていただきました。 基本的な方針としては、課題とこれからの学校教育ということでお話がありましたが、児童生徒数が減ることによって間近に迫っていると考えたときの課題というのは、まさにここで示されたとおりだと考えております。子どもたちのための学びの環境といっても、学習環境もあれば生活環境もあります。人間関係の学びというのも、社会に出て非常に大切かと思えます。その中で、教師が教えられることには限界があつて、やはり子どもたち同士でいろいろな人間関係を学ぶことが重要で、そういった場面は子どもたちにとって大きな課題になってくるのかなというのが大きな点です。そういう意味で、この再編というのは本当に今後しっかりと考えていかななくてはならないと思います。 また、保護者の方の考え、当然子どもが減れば保護者の方の数も減ってくるし、地域を支える地域の方々の数も減ってきます。子どもだけでなく、子どもを支えるための地域環境を支える大人たちのことも考えた上で、この再編をやっていかななくてはいけないなと思います。先ほどおっしゃっていたように、再編の2つの方法というのは本当に難しいところがありますが、先ほど申し上げたように、子どもたちの環境づくりのためにここではいろいろな知恵を出し合いながら探っていく必要があると感じております。
委員	本校は小規模校になっていて、現在2年生と3年生が複式学級という形で学習しております。この先また児童が減ると、更に複式学級が増えて教員数が減るということで、資料に教科担任制の充実とありましたが、指導者のやりくりが本当に難しくなるなということは感じております。そのような中で、小規模校の特色を選んで通学している子どもたちや保護者の方もおりますので、そういった方々のいろいろな、不安な気持ちなどを聞くと、居場所となる学校、教育環境が

	必要であるなということを感じます。その辺の不安を取り除けるような、何かしらの配慮をしながら話を進めていければ良いのかなと思います。
委員	本校も小規模校で学年単学級になっています。教職員が少ないので、その負担というのが大きい状況にあります。教職員が少ないとやはり子どもへの対応は非常に厳しい中にありますが、教職員一人一人の努力によって、問題が起きないように子どもたちをよく見守っています。子どもたちにとっては地域の方々の見守りや支援があり、元々地域で子どもたちを育てるという形でコミュニティ・スクールも進んでいますので、子どもたちは元気に過ごしています。ただ、教職員の負担や保護者の方も共働きの多いので学校運営に携わるというのはなかなか難しく、PTAの方も大変なところがあります。 今後再編が進む中では、学校の良さもありますし、良さを維持することは課題でもあります。再編したことによって、これまで続けていたコミュニティ・スクールや地域との関係性などがどのように進められるのかなと思うところがあります。田植えはもうすぐ50年になりますが、再編した場合にどのように続けていけるかなど、そういったところが一番心配している点です。
委員	同じ市内でも学校ごとにそれぞれ特色があり、それぞれの教えがあります。この北地区においても小学校、中学校あるわけですが、それぞれの特色を生かしながらどう再編していくのが一番大きな課題であり、先ほどおっしゃっていたように、特色を生かしつつ、どう継承していくのが非常に大きな問題かなと思っています。
委員	園でも少子化が進んでいます。小さい年齢ですと、人数が少ないとそれだけ個々に目がかけられるので、そういった点では悪い意味ばかりではないですが、やはり成長と共に友人との関わりが多くなっていると、子どもたち同士の関わり、その集団の中で育つ力というのがとても大きいです。人数が少ないと、同じ友人との関わりの中ではその子が発揮できない力が、違う環境に置かれて違う友人との関わりの中ではその子の良さが発揮できるというような機会がなくなってしまう。資料の課題とこれからの学校教育に書かれているような人間関係の固定化という課題の中で、新しい友人と関わったり、新しい価値観に触れたり、多様な人間関係の中で自分の力を発揮できるような子どもたちの機会が与えられるのであれば、人数が多くなって複数のクラスがあってクラス替えによっていろいろな関わりが持てるというビジョンを出していただいたので、とてもそれは良いかなと思いました。ただ、保護者としては、地域が広がるとそれだけ学校まで時間がかかってしまい、学校の方で見守り体制がとても課題になってくるので、地域の方のお力も借

	りながら安全・安心に登下校できるような学校編成ができれば良いと思っています。
委員	今年は昨年よりも園児数は増えていますが、市内のこども園・保育園全体を見ると、やはり子どもの人数が減ってきているのが現状です。子どもたちがそれぞれの地区でこれから就学して小学校に入り、中学校に進んでいくという形になりますが、今まで皆さんが話ししたようにそれぞれの地域の良さであったり、子どもたちを見守ってきたりしている思いというものもあると思うので、いろいろ議論を重ねながら、学びの環境としてどういうことが子どもたちにとってより良い環境になるのかを考えていきたいと思っています。子どもの中で集団遊びであったり、他の友人の意見や発見を知ったりということにおいても友人はとても大きな存在なので、環境を考えながらこれからの議論を進めていけたらなと思っています。
委員	私自身、基本方針には賛成です。統合や期間を変えることで職員の方々が、たくさん配置されて、加配というか、適正な配置ができるのではないかと考えております。その上で2点ほどお話をさせていただきたいと思います。やはり園と学校というのは具体的でありまして、これから保護者の皆さんからご意見があると思いますが、学校を前提とした家の選定などを考える保護者の方が多いと思っています。再編によって、学校から近いと思って家を建てたら遠い場所になってしまったという保護者の方も正直出てくると思います。先ほど4、5年かかるといったお話がありましたが、それについても保護者の皆さん等も踏まえてできるだけ早く決めていただいた方が、家を建てるとか、引っ越すとか、そういうことにも関わってくるので検討いただければと思います。もう1点は、私は学童にも携わっているのですが、運営的にこちらのお話は学童の今後にも非常に影響します。例えば、九小の友人と一緒にいた場合に今後スクールバスをどうするのかなど、そういった具体的な運用方法等も踏まえてイメージしていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。
委員	やはり集団による社会性の育ちや子どもたち同士の人との関わり、コミュニケーションというものが、小規模という理由で損なわれないような工夫が必要かなと感じました。また、幼児期や児童期では体験を通した学び、生活の中での育ちというのが主なところになってきます。 今年度、新しい環境で4月からスタートした子どもたちを見ますと、新しい環境に対しての順応力などの能力はとてもあるので、子どもたちの力を十分引き出せるような環境を踏まえて検討委員会を進めていき、決まった際に

	「こうなっちゃったね」ではなく「こうなったから楽しみだね」というような、大人側が子どもたちに前向きな言葉がけと前向きな将来を見据えた会話や態度を示すことが必要なのかなと、皆さんのお話を聞いて思いました。詳しいことや細かいところはまだ何ともですが、方針が決まった際には、子どもたちに対しても良くなる方向で大人たちから投げかけられるような関係性が良いと思っています。
委員	私自身、1クラスになるなどの経験が今まであまりなく、子どもも複数クラスなので経験がないです。ただ、端から見ていると別に1クラスしかないことや数が少ないから駄目というわけではなく、その学校ごとにいろいろ特色があるのかなと思っていますし、私自身も母校に対して非常に誇りを持っています。先ほど既存の校舎を改築等していくと説明がありましたが、各学校の保護者からすれば、自分の学校の所に子どもが来るのであれば肯定的な声はある程度あると思います。ただ、別の所に行くとなると「遠くなっている」とか「あっちだと面倒くさい」といった意見が出ると思います。まずその辺をきちんと決めた上で話を持っていかないと、それこそシミュレーションの中で金額がいくらかかるとか、こういうメリットがあるからこの学校が良いのではないかと、ある程度設置場所を決めた上でやっていかないと、結局どこに設置されるかわからなければ、スクールバスが本当に必要かどうかとか、どこかの地域は必ず必要だと思いますが、自分の地域が本当に必要なのかどうかでまた熱量も変わってくると思います。その辺をある程度出した上でシミュレーションの中で候補地を何パターンか見ながら進めていった方がより具体的なのかなと思います。最近他県に行くと、「閉校絶対反対」のような旗などが掲げられていることがあります。自分の所に来ない地域の人からすれば、自分が誇る卒業した学校がなくなることはすごく嫌なのかなと思います。そういう反対意見が絶対出ないとは思わないので、金額などももう少し具体的に、いろいろなシミュレーションをした上で進めていかないと、いつになっても平行線かと思っています。
委員	たくさん意見がありますが、今日は2点に絞って述べさせていただきたいと思います。基本方針と審議会の議事録を私なりに何度も拝見しました。とてもわかりやすい資料でありありがとうございます。この時点では早合点かもしれませんが、北地区としてはもしかすると一小と九小が統合して新設校をつくり、その全員が一中に進学する、二小と三小と四小が統合して新設校をつくり、その全員が二中に進学する、というような一つの目安というか、案があるのではないかと私なりに読み取ったところです。私の理解が間違っているかもしれませんが、私個人としてはそのように読み取りました。適正規模と

	適正配置の両方を満たすにはもしかしたらこれが最適解なのかなと思って いる一方で、最終的な結論はどうなるかわかりませんが、結論ありきの この委員会というようなことではなくて、やはりいろいろなお立場の方と 議論しながら参加させていただきたいという思いです。 それから2点目に、小中連携という観点から分散進学の解消というのが今回 の再編の大きな目的であるということが書かれていました。正直に申し上げ ますと、私個人の肌感覚では以前は分散進学の不満や不都合を訴える声とい うのはそれほど大きくなかったかなと理解しておりました。しかし、今回の 適正配置・適正規模の議論が始まって以降、私自身も周りの保護者の意見を いろいろ聞いている段階ですが、分散進学が一つの要因になって、具体的に 言うと不登校で苦しんでおられるお子さんがいるということも事実として 出したいです。今回大きな再編の流れがありますが、例えば分散進学解消の 問題だけを取り出して早急に進めるような方向性の議論になってくるので はないかなと今のところ考えています。
委員	昔から四小は単学級でした。自分の頃と時代も違うので一概に比べてしまっ てはいけないのかなと思いますが、大人数のところや少人数のところがあっ て、学校って何なのだろうと考えることがあります。学校はやはり子どもの ための居場所であることは絶対に忘れてはいけないと思います。子どもたち が何を学ぶかを考えた時に、私は社会性や集団生活など子どもたちが社会に 出ていくための準備ができる場所、小社会だと思っております。ある程度 何名かの中での競争であるとか、大人数の中に適応していく力などを小学校 のうちから学んでいかないと、今日の資料にあった中1ギャップではないで すが、まさに今複式学級の子は10人いないクラスで学んでいて、それがそ のまま中学校に上がった時にまた何十人もいたら不適應を起こしてしまう のであれば、やはりできるだけ早い段階から集団の中で揉まれた方が少しは なくなるのかなとっております。そういった観点から、本当に子どもにと って何が良いかなどは皆さんのご意見等を伺いながら、あるいは他の保護者 の皆さんのご意見を伺いながら参加させていただければと思っております。
委員	私の母校は2クラスが基本でした。確かに、今の20人前後の子がいきなり 大きな中学校に行くと中1ギャップを起こしやすいだろうなと思います。 かといって、小学校同士をいきなり統合して大丈夫かと言われるとそれもど うなのかなと、ギスギスにならないかなというのも正直あります。ただ、特 別支援学級についてあまり触れないで進んでいるので、そういう子たちにも 配慮していただけたらいいなと個人的には思います。 あとは、話合いが平行線になりがちになると思うので、学校を残したいとい

	う人もいるでしょうし、私も母校に誇りがありますし、もちろん皆自分の出身校や地域に愛着があると思うので、ある程度こういうふうにしていくというものを出示していただけた方が話し合いもしやすいと思います。
委員	私は他県から来た人間なので館林市についてはそんなによくは分かりませんが、上と下の子どもは年の差があります。上の子が小学校に入学した時と下の子が入学した時で人数が20名ほど減っていて、こんなに子どもが減るのだというのを肌で感じた次第です。この資料を読ませていただいて、再編するのに他市町村でも4、5年かかっているとおっしゃっていましたが、自分の肌感覚で子どもの減りが結構早いのだなとは思ったので、やはり早めに取り組んでいく必要があるなということと思いました。 もし、子どもたちの環境づくりというのであれば、検討しながら他の小学校と連携して子どもたち自体も交流させていって、少しずつ慣れさせて行くことも一つの手ではないかなと考えました。
委員	私は子どもが4人いまして、一番下が最近生まれたばかりですので、一番上の子とすごく差があります。上3人育てたときは、東こども園を卒園して、四小卒で、今は二中です。二中に入学したときに、子どもたちにまず言われたのが、少ないところから上がってきたので、すごい衝撃を覚えたみたいで、3クラスに分散させられたのですが、2人3人2人ぐらいに10人ぐらいの子が分かれて、あとはもう三小、二小の子の中で生活するのです。そこに慣れる子はすぐ慣れるのですが、慣れない子にとっては3年間がもう苦痛だったみたいで、卒業してようやく終わったと言った子もいたのですね。それなので、正直な話、統合が進んでくれることは、私自身はちょっと嬉しいです。でも、自分が住んでいる地域のことを考えると、もし統合したとして、通学路どうなるのかなとか、子どもがまだ一番下がこれから通わなければいけないので、どうやって通学路の編成になるのか、スクールバスが出るのか、それとも親の負担がそこで増えてくるのか、その辺がどうなるのだろうというのが正直な本音です。できることならゆっくり少しずつ進めていっていただけると嬉しいかなと思います。
委員	私は県外出身で夫も県外出身なので、館林市が今までどんな感じでどんな状況なのかとかいうのは、本当にこの資料を見させていただいて、分かった状態です。自分はそんなに子ども数が多いところで育ってなくて、ずっと2学級で、中学生から5クラスみたいなところで育ったのですが、特に人数が少なくて困っていたなっていう感じの子ども時代の思い出はないです。だから、子どもの数が少ないのが悪いというわけでもないのだなというのを、皆

	さんの意見とかも聞いて感じました。今、子どもが3人いるのですが、もう本当に毎日生きるのに必死という感じで、こんな大きなことを考えたことがなかったので、皆さんいろんな立場の方の意見を聞いて、うちは小学生と未就学児の子がいるので、もう完全にこれからこの子たちが生きていくときに関わるような大切なことだと思うので、子どもの未来に良い選択をみんなができるように考えていけたらいいなというふうに思いました。
委員	私は大泉町出身で、自分自身は同じ小学校だった子たちと同じメンバーで中学校に上がって、そこで築いた人間関係に助けられて、救われた人間だったので、いろんな学校と混ざった中学校ではなくてよかったなと思った経験をしていました。なので、先ほど園の先生からお話があったのですが、自分自身が家を買うって思った際に、やはりその周りの方とか保護者からとかいろいろお話をする中で、子どもが少ない小学校から中学校に上がったから肩身がすごく狭かったという話を少なからず聞いたことがあったので、自分の子どもがどういう性格かはまだ分かりませんが、自分自身がすごく馴染むのが、長くなくてよかったなと思った記憶があったので、大きい学校から大きい中学校に上られるようにということで、大多数の子たちが上がるところでということで、今回家を検討しました。それぞれの地域でそれぞれの子もたちの実態によっては、統合しても平気という子もいれば、もう人間関係が変わるだけで本当に登校も不安でという子もいて、いろんな子がいるからこそいろんな意見も出て、こうやって会議でいろんな方々のお話があって学校再編ができるのだと思います。自分の子どももそうですけど、市内の子どもたちのことを考えてたくさん学ばせていただきながら自分なりの意見を出させてもらえたらと思い、今日はこれから頑張らせていただこうと改めて思った次第です。いろいろ考えることもあると思うのですが、逆に再編を通じて、それぞれの地区で育った、それぞれの地域で育ててもらった子どもたちの身に付いているもの、根付いているものというのは絶対あると思います。そういった子たちが今回の再編をきっかけにして、例えば、九小の地域で大事に育てられた子どもたちと一緒になるとか、四小の地域で大事に育ててもらった子たちと一緒になるとか、そういった子たちが今まで出会うきっかけがなかったことに対して、今回の再編を通じて出会うきっかけになるっていうのは、一保護者としての出会えなかった友達に出会えるチャンス、出会える未来があるというのはとても楽しみであります。
委員	私自身は三小、二中出身です。三小でも私の家は市場の先の方にあつたので、三小に通うというのはかなり遠かったです。それでも1年生から送り迎えをしてもらうことなく、自分の足で三小まで通っていました。なので、再編に

	よって、もしかしたら家から遠くなってしまう子も出てくると思います。でも、みんなで話し合ってこの学区に決まったということになれば、子どもたちは一生懸命そこに通うと思います。なので、どこに行くかというのを早めに決めてもらうということが、子どもにとっては自分がこの学校に行くのだということを早く認識できるのかなと思いました。それとはまた別の話になりますが、私も子どもが3人います。この3人の子どもには、学区に関係なく、いろんなところに出向いて活動してほしいという思いがあります。児童館へはいろんな児童館、公民館も大島公民館にも伺いますし、お互いの公民館の方に伺ったりとか、いろんな公民館の事業にも参加したりして、そうしたところで得られる地域の人との関わりというのを大切にすると、子どもには伝えていきます。なので、子どもも新しいところに飛び込めば、そこにいる子ども同士で学びますし、子どもは環境を与えられれば、きっと頑張ってくれるかなと思います。それを大人が後押しし、上手くしていけば、子どもたちはこれから楽しくやっていくのではないかなと思います。なので、いろんな地域の方と関わることで、子どもが成長しているなっていうのは肌で感じています。どこの地域の学校になったとしても、自分の子どもには、生き生きとまっすぐに育っていけるように後押ししていきたいなと思います。
委員	私は園の保護者代表としてきています。ずっと皆さんのお話を聞きながら、今ここにいるのは間違いかなという思いを持っています。というのも、私は未就学児の子どもが3人います。これに参加するために資料を読もうとして広げれば、3人がまとわりついてきて、ほとんど熟読できているかというのと、そんなことはありません。本当に1度2度ぐらい読んで、ここに伺っているという状態です。なので、皆さんのお話を聞きながら、私はまだそこまでのいろいろ考えていないとか、これから先どうなっていくのか、再編校が決まっている途中で小学校に入学する子どももいれば、決まった後に入学する子どももいるので、どうなっていくのかなというのが、本当に一個人としては不安というか、不安を持ってないほどよく分かっていないという状況ではあります。ただ、皆さんのお話をいろいろ聞いていき、資料を読む中で思ったのが、まずこの再編というのを小中学校同時に進めていくのかどうか。小学校が変わります、そして、中学校が変わりますという段階を踏むのか、この年に小中学校一気に変えますという、どちらでいくのかなというのが、私は正直読み取れていないので、この先どうなっていくのかなというところが難しいなと思います。それと、皆さんの話を聞いている中で、できれば早い方がいいという話もあるのですが、正直、4、5年後を見据えてやるのか。資料の令和18年度の状況というのを知り、その後の子どもたちのことを考え

	ていくと、あまり駆け足でやるようなことではなく、その１０年後の再編を考えていかなければならないのかなというところで、いろんな話をできれば時間をかけてやっていく方がいいのかなと思っていました。あと最後に一つ思ったのは、子どもが通う園が民営化ということで、先生たちはほぼ変わり、園庭はそのまま。場所もそのまま。友達もそのまま。でも先生たちは変わったという中で、子どもたちは今、友達がいるので、それなりに過ごしているし、新しい環境に適応する能力があると思います。けれど、保護者としては不安もあっての民営化であります。今過ごしていても去年と変わって、これどうなのだろう、あれどうなのだろうという部分もあるので、保護者の立場としては、学校となると、民営化で何かが変わるというよりもっと大きな規模で変わっていくものだと思うのでぜひその保護者と子どもたちを置き去りにしないでほしいというのが一番かなと思います。もちろん地域の方の思いとか、先生方の思いもあると思うのですが、実際に通って学校生活をするのは子どもで、それを支えていくのは保護者で、そこを一番に考えた再編ができていったらいいなと思いました。
委員	私も代表としての話をしたいと考えていたのですが、それとはまた別に、不登校の親としても意見を述べさせていただきたいなと思います。私は親の会の活動を通して、多くの保護者の声を聞いています。その中で感じるのは、やっぱり子どもたちが求めているのは、必ずしも今までのような学校の形ではないことだと思います。一番私が憂慮しているのは、大人数は善であるという、その考えがすごく怖いなと思っております。少人数でいたい人も本当にいます。大人数の中で力を発揮できる子もいれば、少人数だから安心して学べるという子もいます。教室で学ぶことが合う子もいれば、別の環境で力を発揮する子もいます。だからこそ、学校の規模だけで議論するのではなくて、どのような子どもにも、どの子にも学びの機会を保障できる、学校や地域をどうつくるかという視点を大切にしたいなと、私は思っています。子どもたちは一人一人違うと思います。その違いを問題としてではなく、多様性として受け止められる学校や地域をどうつくっていくか。その視点を大切にしてほしい、そこだけはお伝えさせていただきたいなと思っております。子どもが学校に合わせるという形ではなくて、学校が子どもたちに合わせて変化していくということが必要なのかなと思います。それが急務ではないかなと思います。今年の館林市の出生数は約３００人というふうに聞きました。息子が生まれた代、十数年前と比べると約半分ぐらいになっているという話を聞いています。本当にそれもすごい変化で、本当にいろんなことを変えていくことを、今やっていかなければならないかなと思います。

委員長	今お聞きしますと、基本方針につきましては、皆様方ご賛同いただいているものと受け止めました。これからの再編のための検討委員会ですが、これから様々なことを議論して、実際に形にしていく、理念を形にしていくというのが、この検討委員会でございますので、今日は、皆様方から課題やご意見を賜るというのが議題です。ですので、今日何か結論を皆様方で絞って出すのが趣旨ではありませんので、そのようにさせていただきます。他にありましたら、ぜひご意見をいただき、それを踏まえまして、事務局の方へどうぞお寄せください。本当に皆様方には、様々なお立場からご意見をいただき感謝申し上げます。ご協力いただきありがとうございました。予定しておりました議題は終了しましたので、議長の座を降りさせていただきます。
-----	--

8 その他

- ・第2回、第3回北地区検討委員会開催日時の調整及び決定。
第2回北地区検討委員会は、7月15日（水）午後2時より
第3回北地区検討委員会は、8月26日（水）午後6時より

9 閉会